

13:1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。**13:2** 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。**13:3** その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、**13:4** そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。**13:5** この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。**13:6** そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをのしった。**13:7** 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。**13:8** 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。**13:9** 耳のある者は聞きなさい。**13:10** とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。**13:11** また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにももの言った。**13:12** この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。**13:13** また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。**13:14** また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。**13:15** それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。**13:16** また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。**13:17** また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。**13:18** ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

導入

イースターシリーズのマタイの学びを終わりましたので、また黙示録の学びが再開しました。黙示録について常に覚えておくべき重要ポイントが、黙示録 1 : 1-3 に記されています。

黙示録 1 : 1-3

1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。**1:2** ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。**1:3** この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

この箇所から、黙示録が預言書であり、未来の出来事についてあらかじめ知らせていることが分かります。

その情報源はイエスであり、そこから御使いをとおしてヨハネに伝えられました。

ですから、黙示録の解釈には、他の解釈を支持する聖書学者もいますが、私自身は常に「未来主義」の解釈を支持しています。

黙示録 13 章は、大きく分けてふたつの部分で構成されています。

1-10 節は、「海からの獣」の姿についてです。

次に **11-18** 節は、「地からの獣」が登場します。

このふたつの獣について個別に取り上げていきますが、ふたつは互いに切り離せない関係です。

海からの獣の概略 (1-10 節)

ヨハネは幻で、海辺に立っています。すると海から獣が上がってくるのが見えました。

1. 獣は 7 つの頭を持ち、それぞれの頭に神を汚す名が記されていました。その頭のひとつは致命傷を負っていましたが、それは突然治りました。すると、世界中がその傷が治ったのを見て驚きました。
2. 獣には 10 本の角があって、10 個の冠がそれぞれについていました。
3. 獣はひょうに似ていましたが、足は熊のようで、口はライオンのようでした。

獣は、3 年半の間、思いのままにふるまう権威をサタンから与えられました。

獣はイエス・キリストの信徒たちである聖徒たちに戦いを仕掛け、負かしました。(7 節)

小羊のいのちの書に名前を記されている人を除き、世界中のすべての人たちが獣を拝みました。信徒たちは、忍耐するように、そして信仰と忍耐を働かせる機会としてこれを活かすようにと語られます。

この個所についてまずお伝えしたいのは、ヨハネの幻が、ダニエル書 7 章に記されたダニエルの幻と似ていることです。

ダニエルが幻を見たのは、ヨハネよりも 600 年ほど前です。

黙示録の内容とまったく同じではありませんが、同じ特徴のものです。

ダニエル書の利点は、ダニエルの幻の解釈が記されていることです。

聖書の解釈には常に、私たちの考えに頼るのではなく、聖書自体を頼りにする必要があります。

ですから、黙示録を理解する上で、ダニエル書を参考にととても役立ちます。

1-10 節を 3 つに分けて考えていきましょう。

1. 獣の描写 (1-3 節)

まず、ダニエル書 7 : 1-8 を読みましょう。

7:1 バビロンの王ベルシャツアルの元年に、ダニエルは寝床で、一つの夢、頭に浮かんだ幻を見て、その夢を書きしるし、そのあらましを語った。 7:2 ダニエルは言った。「私が夜、幻を見てみると、突然、天の四方の風が大海をかき立て、 7:3 四頭の大きな獣が海から上がって来た。その四頭はそれぞれ異なっていた。 7:4 第一のものは獅子のようで、鷲の翼をつけていた。見てみると、その翼は抜き取られ、地から起こされ、人間のようになり二本の足で立たされて、人間の心が与えられた。 7:5 また突然、熊に似たほかの第二の獣が現れた。その獣は横ざまに寝ていて、その口のきばの間には三本の肋骨があった。するとそれに、『起き上がって、多くの肉を食らえ』との声がかかった。 7:6 この後、見てみると、また突然、ひょうのようなほかの獣が現れた。その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。 7:7 その後また、私が夜の幻を見てみると、突然、第四の獣が現れた。それは恐ろしく、ものすごく、非常に強くて、大きな鉄のきばを持っており、食らって、かみ砕いて、その残りを足で踏みつけた。これは前に現れたすべての獣と異なり、十本の角を持っていた。 7:8 私がその角を注意して見てみると、その間から、もう一本の小さな角が出て来たが、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。よく見ると、この角には、人間の目のような目があり、大きなことを語る口があった。

次に、ダニエル書 7 : 23-27 を読みましょう。

7:23 彼はこう言った。『第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。 7:24 十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。 7:25 彼は、いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを滅ぼし尽くそうとする。彼は時と法則を変えようとし、聖徒たちは、ひと時とふた時と半時の間、彼の手にゆだねられる。 7:26 しかし、さばきが行われ、彼の主権は奪われて、彼は永久に絶やされ、

滅ぼされる。7:27 国と、主権と、天下の国々の権威とは、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その御国は永遠の国。すべての主権は彼らに仕え、服従する。』

ダニエルの幻にも、獅子、熊、ひょうが最初の3つの獣について記された特徴です。

一方、ヨハネが見たのは、この3つがひとつになったひとつの獣です。

ひとつの獣にこれらの獣の特徴がすべて含まれています。

言ってみれば、歴史上の極悪な人々を寄せ集めてひとりにしたようなものです。

皇帝ネロは、新約時代の非道な暴君のひとりです。ネロは夜になると、クリスチャンを広い庭に集め、やにを塗り、人間たいまつとして燃やしました。

ユダヤ人にとっては、第二次世界大戦中に何百万人もの大虐殺を命じたヒトラーが近代歴史でもっとも極悪な人でしょう。

現代では、イスラム過激派ISが世界中でクリスチャンを殺しています。

ヨハネがここで見たのは、歴史上もっとも非道な「反キリスト者」でした。

その人物は、歴史上の極悪非道な人々の性質をすべて兼ね備えています。

ひょう、獅子、熊の習性や性質から、さらに多くの事柄を読み取ることができると思います。

ひょうは、獲物を捕える際、ずる賢く巧妙な手段を使います。

ライオンは、強い牙の持ち主で、熊には大きな足があります。

これら3つの動物の特徴から、未来の「反キリスト者」は、とてもずる賢く、巧妙に人々を欺く者です。また、大きな口を持ち、熊のような大きな足で人々を踏みつけるのです。

獣の説明に、7つの頭、10本の角、10個の冠があります。

ダニエルは、この人物が世界を牛耳る権力者のトップとなり、地上を支配すると語ります。

この人物とその権力は、過去に存在した世界の権力とは異なります。

この「国」を支配する10人の王が出てきます。

つまり、全世界を支配するひとつの権力が10国に分割されるようなものです。

10人の王が構成するひとつの世界支配力があり、その後、反キリスト者が出てきて、神を汚すようなことを言います。

3節には、獣の頭のひとつは殺されたように見えたとあります。

しかし、その人物はなんとか治ります。

これは、死からの復活だと思わせるような、獣による何らかのトリックだと考えられます。

死と復活のトリックは世界中の注目を集めるでしょう。

また、それぞれの頭が神を汚すようなことを口にするとも記されています。

ローマ帝国では、皇帝崇拝が日常的に行われていました。

人々は、皇帝が神であるとか、主であると宣言するよう強いられました。

中でも、カリグラは皇帝崇拝を強硬に推し進めた人物です。

カリグラは自らの神格化を重視し、世界中のすべての人が彼を崇拝すべきと主張したほどです。

また、エルサレム神殿の至聖所に自分の像を建立することを要求しました。

そのために軍を送りましたが、実現する前に突然死亡しました。

(資料：ヨセフス著「ユダヤ古代誌」18：18)

今後気をつけるべきなのは、自らを神と主張したり、崇拝対象にすることや絶対服従を要求するような巨大権力のトップです。

2. 反キリスト者の行動 (4-8 節)

ここでは、「反キリスト者」が何をするのかを考えたいと思います。

黙示録にふたつ、そしてダニエル書にもうひとつ、その内容が記されています。

1. 反キリスト者は神を冒瀆する。(5 節)

反キリスト者は、42 カ月間、神を冒瀆します。

ダニエル 7 : 25 は、いと高き方に逆らう言葉を吐く、と語ります。反キリスト者は、そのひどい様を隠そうとしません。

Ⅱテサロニケ 2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

サタンは常に、神のようになりたいという野望を持っています。

イザヤ 14:14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』

2. 反キリスト者は、クリスチャンの信徒たちを迫害する。(7節)

反キリスト者は、クリスチャンの信徒たちが世界中で迫害され、殺されるようにします。クリスチャンが自らの権力を脅かす存在だと考えるからです。

肉体的には反キリスト者が信徒たちを力で負かすことができても、霊的には負かされません。

ローマ 8 : 38-39

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、8:39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

3. 反キリスト者は、時と法則を変える。(ダニエル 7 : 25)

これは非常に興味深いポイントです。現在、英国や米国ではすでにこれが始まっているからです。

この変化の初期段階が、未来の反キリスト者の有利に働きます。

英国では近年、クリスマスという呼び名をウィンター・フェスティバルに変えようという動きがあります。

地域によってはすでにそうなっているところもあります。

多くの人々からの寄付で運営されているナショナルトラストという大きな団体があって、毎年イースターにイースター・エッグ・ハントを催していますが、今年は、イベント名からイースターを消そうとしました。

英国では、親が庭にイースターエッグを隠したり、団体が公園などで催しを開いたりします。そこで、子どもたちがたまごを探します。

チョコレート製のイースターエッグは、これまでずっとキリスト教のシンボルでした。

これは、本物のたまごを赤く塗って、イエスの血を思わせたことが始まりです。(香港では今もそうします。)

殻は、閉ざされた墓のしるしです。

昔は、イエスが埋葬された墓を封じる石を転がすという意味で、子どもたちは本物のたまごを転がしました。

新聞やメディアによる抗議を受け、ナショナルトラストはウェブサイト「イースターエッグ」という言葉を改めて表示せざるを得なくなりました。

(抗議したクリスチャンがいたことを主に感謝します。)

英国では、冒とく罪はキリスト教以外のすべての宗教に適用されます。

イエス・キリストを冒とくしても罪になりませんが、コーランや預言者ムハンマドを攻撃する発言は、それが事実であっても許されません。

英国では、公共の場で聖書を引用することは社会的に許されず、公共の場で聖書の真理が正しいと主張すれば、逮捕されてしまうところまで来ています。

英国におけるこのような時と法則の変化は、10年ほど前から起こっています。

私たちはポスト真実の社会に生きていられると言われます。ですから、最終的にはすべてが聖書の教えに反するようになるでしょう。聖書の教えは絶対的な真理だからです。

反キリスト者が、ユダヤ教やキリスト教の祭りやお祝いをすべて取り除こうとすることは明らかです。

イスラム教の真髄はクリスチャンとユダヤ教徒を絶滅させることです。

今日、聖書で読む内容が、まさに起こり始めています。それは、反キリスト者のために道を開くためです。

4. 反キリスト者は、キリストを信じる信徒たちを除くすべての人々から崇拜される。(8節)

8節から、反キリスト者が出てくる時に地上で生きているクリスチャンはとても勇気があって強いことがわかります。

他の人たちが皆、反キリスト者を拝むときに、この信徒たちは拝みません。

次に進む前に、10節に注目しましょう。

これはなかなか理解しにくい部分ですが、簡単に説明してみましょ。

この箇所は、ふたつの箇所の引用です。

まず、エレミヤ 15 : 2 からいくつかの言葉が引用されています。

エレミヤ 15:2 彼らがあなたに、『どこへ去ろうか』と言うなら、あなたは彼らに言え。『【主】はこう仰せられる。死に定められた者は死に、剣に定められた者は剣に、ききんに定められた者はききんに、とりこに定められた者はとりこに。』

この箇所は、神のおきてを逃れることはできないという意味です。

次に、マタイ 26 : 52 でイエスがおっしゃったこととも関連します。

マタイ 26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。

これらの箇所を考慮すると、みことばは次の3つのポイントを示します。

1. クリスチャンであることやイエスに忠実であることが理由で投獄されるなら、それを受け入れなければならない。
イエスについていくために必要なことは、どんな困難でも受け入れなければなりません。
2. キリスト教は、武力で守ることはできない。
武器を取って武力における戦いを始めてしまうと、霊の領域を外れて肉の領域に入ってしまう、とイエスはおっしゃいました。
エペソ 6 : 12 も、私たちの戦いは血肉に対するものではなく、悪霊に対するものであると語ります。

コリント第二 10 : 3-5

10:3 私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。 10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。 10:5 私たちは、さまさまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

暴力によって福音を守ることはできません。

3. 反キリスト者に対してクリスチャンが使える武器のひとつは、忍耐と信仰である。
ここで「忍耐」と訳されたギリシャ語の単語は「ヒュポモネ」です。この単語は、何もしないでいることではなく、困難な状況を神の栄光に変えることを意味します。

これこそ、イースターに起こったことです。しゅろの日曜日にエジプトでイスラム教徒によってクリスチャンが殺されました。

しゅろの日曜日にエジプトのアレクサンドリアにある聖マルコ大聖堂で自爆テロがありました。エジプト人ジャーナリストであり、テレビ番組の司会者でもあるアムル・アディーブ氏は、この自爆テロで犠牲となった警備員のナシーム・ファヒーム氏の奥さんがインタビューに答える様子を見た後、10秒間ほど沈黙しました。

そして、「エジプトのコプト教徒は鉄人だ」と宣言しました。

「もしこれが私の父に起こったなら、こんなふうに言えなかったでしょう。この人たちには、赦しの心がある。それがこの人たちの信仰であり、宗教上の信条なのです。この人たちは、内側からまったく違います。」

「神がナシーム・ファヒーム氏をあわれんでくださいますように。彼は英雄であり、殉教者です。私たちすべての模範です。しゅろの日曜日、この警備員は大聖堂で自爆テロ犯を金属探知機のほうへと誘導しました。そして、テロ犯が12キロもの爆発物のスイッチを押した際、おそらく最初に犠牲となった人物と思われます。16名が犠牲となり、大半は女性や子どもたちでした。しかし、この警備員のおかげで、聖堂内にいた多くの人々の命が救われました。警察当局は、22歳のマハムド・シャフィク・モハメド・ムスタファを容疑者と断定しました。」

では、13章の後半に進みましょう。ここには、「地からの獣」が登場します。この獣の描写と働きから、これがどんな獣かがわかります。

1. 地からの獣の描写 (11節)

この獣は子羊のように二本の角があり、竜のように話したとあります。「竜」という単語が使われていることから、獣の声はすぐに誰かわかります。

黙示録 20:2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、

子羊のような二本の角という描写は少しわかりにくいものです。通常、子羊はおとなしく、獣のようではありません。けれども、角のある羊は違います。ですから、これは優しそうに見えて本当は非常に危険な人物を指しています。イエスはこのような人物について、羊の衣を着たオオカミと表現しました。表面上は優しく、誠実そうに見えて、実際はそうではないのです。

2. 獣の働き (12-18節)

この獣は非常に活動的で、あらゆる物事に関わります。

- a) 海からの獣である反キリスト者を崇拝するように人々をそそのかす。(12節)
- b) 大きな奇跡を行い、それを使って人々を欺く。天から火を降らせることもできる。(13節)

なぜ天からの火なのでしょう。
これを知るには、黙示録11:5を見る必要があります。

黙示録11:5 彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。

ここには、ふたりの証人、おそらくモーセとエリヤに、口から火を出して敵を滅ぼす力があると記されています。

サタンは、神の証人たちが起こせるのと同じ奇跡を起こしたいと思うでしょう。

イエスは、マタイ24:24で、終わりの時には偽りの預言者が起こって、大きなしるしや不思議なわざを行い、可能ならば選ばれた民まで欺こうとする、と弟子たちに警告なさいました。

これらのしるしや不思議なわざはとても説得力があります。

私たちは、しるしや奇跡に傾倒する現代の世の中に気をつけなければなりません。

米国では最近、しるしや奇跡の大会までありました。

その広告キャッチフレーズは、「しるしと奇跡でひとつになる」でした。

今日の個所に登場するふたつの獣は、喜んでこの大会に参加するでしょう。

問題は、この大会がクリスチャンによって運営されたものだったことです。

30年以上前のことですが、私たちの聖書学校の講師のひとは、「奇跡が起こったら、すぐにハレルヤと言わないで、その出所を確かめなさい。確かめた結果、それが神からのものだとわかったら、ハレルヤと言えます」と言っていました。

つまり、超自然的な現象に関して見分ける力が必要だということです。

イエスは、奇跡によってではなく、生き方によって説教者を見極めるようにと教えておられます。(マタイ7:20)

- c) 獣の像を造るように人々に命じる。
- d) その像に話す能力を与える。
- e) 獣を拝まなければ殺されるという法律を作る。
- f) 右手か額に刻印を受けるよう、すべての人に命じる。その刻印を受けなければ、売り買いができないようにする。

驚くかもしれませんが、「ポジティブID」という会社は、人間の体内にマイクロチップを埋め込んで健康状態をモニターする技術を持っています。

症状が出る前に、病気を診断することができます。

ご覧のスライドは、その埋め込み手術を受けている様子です。

現在は、この技術が良い目的のために活用されていますが、「地からの獣」の手でいつでも目的が変えられる状態です。そして、すべての人が強制的にチップを埋め込まれるのです。

体内のマイクロチップがクレジットカードの役割を果たすようなものです。

50年前は不可能だと思われたことが、今は現実であり、可能になってからすでに17年が経っています。

最後に、18節は、獣の数字が666だと教えてくれます。

この666という数字をもとに「偽預言者」を特定しようとしてきた多くの人たちの真似は私はしません。

ただ、その人が現れれば、認識できるだけの情報は十分にあります。

その人物が地上で悪魔の力を発揮するときに、私たちが地上にいないことを望みます。

ひとつだけ申し上げておくと、イスラム教が完成されたのは、紀元666年です。これは、現在のイスラム教が行うことや信じることと合致します。

彼らは、イスラムの神を礼拝しないことを理由に、100万人以上の人々を殺してきました

た。

また、イスラム法のシャリーアによると、イスラム法を守る人々としてしか売買をしてはいけないことになっています。

総括と適用

今日のメッセージから、日常生活やゴールデンウィークに役立つ教えは何でしょう。

1. たましいの戦いで、勝ち組についていなければならない。

サタンは、私たちがだましてサタンについて行かせようとしています。神は、サタンの束縛から私たちが救い出すことを望まれます。

イエスはヨハネ8：32で「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」とおっしゃいました。

ここで簡単に、聖書が私たちについて教える真理を挙げておきましょう。

- a) 私たちは、罪の呪いがかかった世に生まれました。私たちは、サタンの支配下にある罪深い性質を持っています。
- b) 神は、100%聖なるお方で、この世の創造主です。また、ご自身と交わるために人類をお造りになりました。
- c) 神がお造りになった最初の人、神に逆らい、聖なる神との霊的なつながりを失ってしまいました。それが原因で、私たちの神との関係も壊れました。自力で神との関係を修復することは不可能です。
- d) 良い知らせは、神がその問題を私たちのために解決してくださったことです。神は御子イエス・キリストをこの世に遣わされました。それは、イエスが私たちの罪にふさわしい罰を受け、十字架で死ぬためです。
- e) 神は今、サタンの力と罪から私たちを解放しようと手を差し伸べておられます。
- f) 私たちがしなければならないことは、ただ罪を悔い改めて、イエスを信じることです。これは自らの罪を認めることなので、簡単ではありません。しかし、他に道はありません。また、罪に背を向け、イエスを人生の主であり管理者として認めなければなりません。そして、イエスに従うためにすべてを捨てなければなりません。
- g) 真理を信じるなら、私たちは自由にされます。イエスは私たちの心をご存じです。イエスをだますことはできません。だから、心からイエスについていく覚悟が必要です。また、自分が受けるべき罪の罰が死であり、イエスの死が身代わりの死であったことを認めなければなりません。

礼拝後、クリスチャンになることについて相談したり祈ったりする機会があります。

2. すでにクリスチャンなら、最後に戦いに勝つのはイエスだけであることを励みとしよう。

人生の戦いの中で、クリスチャンは落胆してしまいがちです。けれども、私たちが勝ち組に入っていることを認識するならば、励みになるでしょう。

コリント第一15：57-58

15:57 しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。